

## 主要作物の収益性について

田中武雄・片岡文男

香川県内に作付されている主な作物と今後作付転換を奨励している作物について、その収益性を研究するため、次の指標によって5戸の農家を選定し、実態調査を行った。

### 指標

1. 営農記録をしている。
2. 早期水稲とビートを作付している。
3. 乳牛又は大家畜を飼育している。
4. 専業農家である。
5. 地域がかたよらない。

作物毎の所得は現金、現物のみを対象としたもので、資本利子、地代、資産の償却、公租公課は別にしたので精密なものでなく、粗所得である。

なお、この調査農家の産出、投入は普通農家の平年より、稍上位である。但し、早期水稲の産出は縞葉枯病のため、平年の60%である。しかし、所要労力は平均より非常に少なく60~70%である。この労力を節減した分が他の農家より所得を多くあげている。

### 2. 作付体型毎の牧益性

35年作付の早期水稲は、特に、縞葉枯病の被害を多く受け、平年作の約60%の収量であった。そのため月当りの所得は少なかったが、早期水稲の収量が平年作であればこの体系の所得が大である。又ビートは農家の栽培経験が少ないため、平均以上の労力を要している。

ビートの茎葉は飼料価値が高いので早期水稲~ビート~エンバクなどをよく組合せ、酪農と強く結合させれば多頭酪農の安定が考えられる。

### 調査成績

#### 1. 作物毎の収益性